

紫藤通信

発行所

山村国際高等学校
坂戸市千代田1-2-23
☎ 049-281-0221

印刷所

有限会社 須賀印刷

<http://www.yamamura-kokusai.ed.jp>

第69回 紫藤祭



第六十九回紫藤祭は九月三十日に行わ

れました。伝統ある紫藤祭ですが、新型コロナウイルスの影響により一般公開、教室を使った出し物や模擬店など例年通りの実施はかきませんでした。しかし、少しでも生徒の思い出に残る紫藤祭にしたいという気持ちからオンラインでの開催が決定となりました。「Goforit!」想像力でぬりつぶせ〜のテーマのもと制限の多い中でしたが想像力を活かし、活動がスタートしました。多くの生徒、団体の協力のもと準備を進めることができました。

紫藤祭当日は各クラスHR教室のプロジェクターを使い教室からの参加となりました。第六十九回紫藤祭は書道部のパフォーマンスで幕が上がりました。第六十九回紫藤祭の幕開けにふさわしいとても素晴らしいパフォーマンスでした。新しい取り組みとして有志クラスが事前に撮影、編集したダンス動画や歌詞動画の発表が行われました。各クラス協力して作り上げられた作品はとても盛り上がりました。その他にも事前に撮影した有志団体のコスプレコンテストやM-1など想像力あふれる企画が行われました。コスプレコンテストでは、キャラクターや人気YouTubeなどなどのコスプレが披露されました。M-1は当日生配信での披露でとても盛り上がりまし



た。そして吹奏楽部・英語部・よさこい部・コーラス部・軽音部・パントマイム・ダンス部・ダンス部によるパフォーマンスが行われました。生配信の団体と事前収録の団体がありプロジェクター越しでの披露となりましたが緊張感や生徒の頑張りや魅力がしっかりと伝わり各教室を虜にしています。最後に生徒会企画としてクラス対抗のクイズ大会が行われました。意外あり、笑いのクイズ大会になりました。

また、今年度はパンフレットにイラスト部・華道部・茶道部・写真部・書道部・生物部の作品や活動紹介を掲載しました。

多くの制限がある中ではありましたが生徒会、文化祭実行委員、放送部参加してくれた団体をはじめ数多くの生徒の協力により開催することができました。

すべてに学ぶ心

校長 中山達朗

「人生何事も経験であり、勉強である」と言いますが、そのような心構えを持って人生を過ごしていくならば、時間とともに色々なことを覚え、学びとっていくことができるでしょう。そういった姿勢こそが、自身の成長に繋がっていくのではないのでしょうか。

例えば、人との日常会話でも、何気なしにただ話をしているのであれば、その場限りのものになってしまうかもしれません。しかし、そういう時でも、勉強する態度や「学ぶ心」を持っていれば、相手のふとした言葉の中から学ぶものを見つけ出すこともあると思います。自分では気づかなかった事や知らなかった知識を学んだり、さらに、何らかの教訓を得たりというように「学ぶ心」さえあれば、自らの知性や教養を高めることができます。

もし、こうした「学ぶ心」がなければ、何を見ても、何をしていても感動もなく、ただそれだけのことに終わってしまいます。

現代は、情報化の時代と言われています。様々な情報を迅速的確に収集し、精査するとともに良きものを効率的に活用することが求められています。そのためには、学習の機会は大切になるのです。人生百年とも言われている今、二十一世紀の主役である皆さん一人一人が、生涯にわたり「学ぶ心」を持ち続け、健康で心豊かな人生を構築してください。

●各賞の受賞は次の通り

紫藤賞

文化賞

クラス動画賞

ステージ賞

生徒会賞

三年一組 吉川 幸果

有志部門

カオナシカオナシ

ダンス部

一年三組

吹奏楽部

二年五組

書道部

一年七組

1学年遠足「森林公園」



十一月二十五日、わたしたち第一学年は滑川町の森林公園へ遠足に行つて参りました。そもそも森林公園に行くこと自体への反発があるなか、さらには十一月も下旬で寒さが心配されるなかではありましたが、それでもほとんどの生徒が集合場所に集まってくれてくれたことに、心より感謝したいと思います。心配された寒さですが、当日は小春日和に恵まれ、むしろ紅葉を満喫するには絶好の機会となりました。お菓子を持ち寄り楽しむ者、フリスビーやゴムボールでキャッチボールをする者、アスレチックやサイ



クリングコースで楽しむ者、昼寝をする者、そしてポンポコマウンテンではしゃぐ者、さらに珍しいものでは「風あげ」に挑戦する者（残念ながら当日は風が吹かずうまくいきませんでした）、それぞれが思い思いの一日を過ごしてくれたように思います。生徒はもちろんですが、引率してくれた学年の先生方にとっても、広い空の下で過ごせたことが良いリフレッシュになつてくれたら、と願わずにはいられません。改めてご協力ありがとうございました。



3学年 芸術鑑賞『劇団四季』

三学年は芸術鑑賞教室で、劇団四季主催「ライオンキング」を有明の四季劇場にて鑑賞しました。この物語は、ある王国の王の巨大な力と、その息子の成長を描いた物語です。わかりやすいストーリーテリングの中に、生命は大きな輪廻の中にあり、そのため、我々は様々な理不尽な目に合わねばならず、これに打ち勝つためにささやかながらその理不尽さに学び、成長していかなければならないといった内容です。そしてこの物語をアフリカの壮大な平原のなかの、ライオンを中心とした動物の世界へと置き換えています。ミュージカルの圧倒的な迫力と説得力を前に、我々はただただ首を垂れるしかありませんでした。その場では「よくわからないけど感動した」「感動」は、やがて一人一人の心の中に深く染み込み、これから何度か繰り返される「思い出」として意味を持つてくるもののはずです。まさに「サークル・オブ・ライフ」と納得してしまいました。

修学旅行 北海道・東北



二日目は新幹線で青函トンネルを抜け、函館へと移動するところから始まりました。到着した函館では雪の降りしきる中、五稜郭タワー、金森赤レンガ倉庫、函館山ロープウェイなどの観光を楽しみました。

十一月二十五日から二十九日の四泊五日で二学年の修学旅行が実施されました。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり国内での実施となり、目的の地は「震災防災学習」「人権学習」をテーマに北海道・東北になりました。

初日は大宮駅から新幹線で岩手と宮城に分かれ、それぞれの地の震災遺構を見学しました。十年以上経った今もなお残る、地震や津波の爪痕を目の当たりにして事前学習だけでは学ぶことのできないこと、感じる一人一人が感じていたように思います。



三日目にはウポポイ民族共生象徴空間を訪れ、アイヌの文化や歴史に触れることで人権問題について改めて理解を深めることができました。夜にはサッポロビール園にてジンギスカンの食べ放題を行いました。旅行前までは羊肉を苦手感じていた多くの生徒が憑かれたかのようにたくさん羊肉を食べていたのがとても印象的でした。



四日目は日中に旭山動物園を見学し、夜にはテーマパーク「マナー講習が行われました。どの生徒も慣れない手つきながらも真剣に取り組んでいました。



そして最終日には小樽での自主研修を行いました。お寿司や海鮮丼、地元で有名なラーメンを食べたり、北海道ならではのお土産を購入したりと生徒は各々の時間を存分に楽しめたのではないかと思います。



今回の修学旅行では、「震災防災学習」「人権学習」を通じて生徒に自分や他者の未来について考える姿勢が多くみられました。目的の地が海外から国内へと変更になってしまいましたが、この笑顔の溢れた五日間は生徒にとつてかけがえのない思い出になったのではないのでしょうか。

Recitation Contest Speech Contest



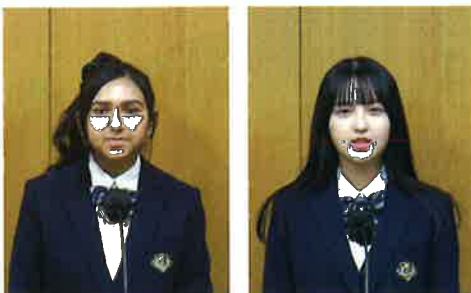
Our students' English skills were on full display at Yamamura Kokusai High School's 15th annual recitation contest and the 25th annual speech contest on Monday, December 20th. This year's contests were shown in the classrooms via prerecorded video because of the ongoing COVID-19 prevention measures.

This year's participants numbered 14 for the recitation contest and 9 for the speech contest. The students poured their hearts and souls into reciting and memorizing their works. The passion and determination to express themselves exceeded all the English teachers' expectations. There were so many really wonderful speakers at this year's contest it was extremely difficult to choose the winners. Everyone who participated performed fantastically under stressful circumstances. Great effort by all!

The students in the classroom viewing had the chance to vote for the speech they thought was best for the Student Prize on their tablet computers using Classi. The students voted in overwhelming numbers.

This year's participants for both the recitation and speech contests spoke of their humanity, of vital social issues facing us today, and their eagerness to change the world for future generations. All of us who were lucky to watch and listen were inspired and reassured that the future is in good hands with our students. To a job well done!

Recitation Contest



Recitation Contest

1st place

1-1 Raisa Belal

2nd place

1-5 Mitsuki Fukada

Speech Contest

1st place

1-7 Yamato Arai

2nd place

1-5 Kureha Shibuya

3rd place

1-5 Miyabi Matsumura

Teachers' Prize

1-5 Aine Yoshida

Students' Prize

1-7 Shiho Nakamura

Speech Contest



モザイクアート

ボランティア活動『モザイクアート作成』に全校生徒で取り組みました。

この一年半、新型コロナウイルス感染拡大により医療従事者の方々が厳しい環境の中私たちの健康を守るために働かれている姿を、報道などを通して見聞きしてきました。今回の活動企画は、日々頑張ってくださる医療従事者の方々に感謝の気持ちをメッセージカードに記入し、モザイクアートを完成させるというものでした。生徒会役員を中心に株式会社コカ・コーラボトラーズジャパンさんと連携をとりながら制作しました。一枚一枚に心もった計一九二〇枚のメッセージカードを貼り合わせていくと、『感謝』の文字が浮かび上がるデザインに仕上がりました。現在完成したモザイクアートは鶴ヶ島市にある関越病院に展示されており、多くの医療従事者の方々の励みとなっていることでしょう。

この取り組みを通して、医療従事者の方々の仕事に対する理解や自分たちにできる行動の再確認ができました。引き続き、体調管理には十分に気を付け、各自ができる新型コロナウイルス感染拡大防止対策を続けて参ります。



カウンセリングルームより

『お豆腐メンタル』という言葉聞いたことがありますか？『お豆腐メンタル』とは、精神的に弱いとか凹みややすいという意味の比喻として数年前から使われているようです。調べてみると、『遊戯王デュエルモンスターズ』というTVアニメの主人公が、別人格になると驚くほど精神的にもろくなってしまう様子から名付けられたらしいです。そして、『お豆腐メンタル』に対して、柔軟な思考と強い心を持つ『こんにやくメンタル』という対義語もあるようです。『お豆腐』も『こんにやく』もやわらかいイメージがありますが、お豆腐は崩れやすく、こんにやくは弾力があつて簡単には崩れないということのようです。

お豆腐がこんにやくかの違いは、『メンタルが弱い、強い』のではなく、『メンタルにマイナスの影響を与えがちな『思考パターン』を持つているかどうかの違いと理解すると良いかもしれません。

つまり、同じ出来事でも全く気にしない人もいれば、必要以上に気にしてしまう人もいます。こういう受け取り方の違いで、メンタルが弱い強いと言われがちですが、実は『メンタルにマイナスの影響を与えてしまう思考パターンや言語パターンを習慣的に身につけてしまっているだけ』なのです。

例えば、『LINEが既読になっても返事が来ない。』という出来事に対して、『怒

らせちゃったかな？嫌われたかも？』と考える人と『忙しいのかな？』と考える人がいますよね。あなたはどちらのタイプでしょうか？

事実は、『LINEの返事が来ない。』ですが、前者の解釈はメンタルにマイナスの影響を与え、後者は落ち込むこと無くしなやかなメンタルを維持できます。つまり、事実をどう解釈しているか選んでいるのは自分自身なのです。

私達の悩みの多くは『事実』そのもののより『その事実をマイナスに解釈する思考パターン』によつておこると言われています。あなたがもしお豆腐メンタルになりがちな思考パターンを持っているとしたら、まずは『私の中のお豆腐メンタルが出てきた』と気づけるようになることが大切です。そして、『こんにやくメンタル』だったら、別の思考パターンで事実をもう一度解釈してみると、『忙しくて忘れてしまったのかも』『返事をしたつもりなのかも』『既読はついたけど、まだ全部読んでいないのかも』など、いろいろな考え方が出てきそうですね。また、『人には人の都合があり、返事の早さと人間関係は関係無い』と相手は考えているのかも知れません。思いつかない場合は、他の人に聞いてみるのも良いでしょう。

出来事(事実)は変えることは出来ませんが、解釈のレバトリは増やせます。あなたの中にある、お豆腐メンタルに振り回されないよう、自分の中にあるこんにやくメンタルの番も意識して増やしてみませんか？

事務室だより

皆様には、日ごろ事務事業に対しまして多大なご理解とご協力をいただいておりますことに心から感謝申し上げます。

本年度の事務事業も、コロナ禍の所、皆さんのご理解、ご協力をいただき順調に推進されておりますからお礼申し上げます。

これからは、年度の総仕上げに向けて、気分も新たに仕事に取り組む姿勢です。

ただ、本校においても学校経営の合理化・効率化や処理体制の充実ということが大いに期待されている所です。

学校を取り巻く環境の変化が著しく、今後どのように対応していくのかが問われる時代となっています。そのために皆さんと知恵を出し合い、工夫・努力することが重要だと思えます。知恵を集結し、問題解決に向けて協議を進めることができれば、より良い解決策を導き出し、学校運営が出来ると思えます。

職場や保護者・地域間とのコミュニケーションを活発に行い、情報の共有化を図ることが、皆様の元氣や職場の活気ある原動力につながると思えます。

現在事務室では、皆様に今まで提出頂きました『就学支援金』『父母負担軽減事業』『奨学のための給付金』について、国及び県に提出し、結果を待っている状態です。

事務長 師岡 昇

保護者の皆様は、この3点の補助金申請について、「きちんと提出したかを確認したい」「出し忘れてしまい、今から提出したい」としくは「家計の急変があった」などについてご連絡を頂ければ早急に対応致しますのでお気軽に事務室までお電話ください。

順調に処理が完了し、県から補助金が出ましたら、初回申請の方へは、年度末に現在届け出のある授業料振替口座に振込処理をさせて頂く予定です。届け出口座の変更等ありましたら、早めにお知らせください。

本校での就学支援金及び父母負担軽減事業申請は生徒が学校で安心して勉学・部活動に励めるよう、この事業に私学の中でも熱心に取り組んでいる学校です。遠慮せず相談を積極的にお願いたします。

